

①令和2年特(わ)第858号 令和2年3月31日公訴提起 同月13日勾留

②令和2年特(わ)第1327号 令和2年6月15日公訴提起 同年5月28日勾留

(刑事第13部係属)

勾 留 執 行 停 止 決 定

被告人 相嶋 静夫

昭和23年 〇〇月〇〇日生

被告人に対する①②外国為替及び外国貿易法違反被告事件について、令和2年10月27日、主任弁護士小林貴樹、弁護士高田剛、同鄭一志、同河村尚及び同瀬川慶から勾留執行停止の申立てがあったので、検察官の意見を聴いた上、令和2年11月5日午後2時から同月20日午後3時まで勾留の執行を停止する。

釈放後は、次の指定条件を忠実に守らなければならない。これに違反したときは本決定を取り消されることがある。

指 定 条 件

1 被告人は、次の(1)又は(2)のいずれかの場所に在所しなければならない。

(1) 〇〇〇〇〇〇〇〇 被告人方

(2) 〇〇〇〇〇〇〇〇 病院

2 逃げ隠れしたり、証拠隠滅と思われるような行為をしてはならない。

3 召喚を受けたときは、必ず定められた日時に出頭しなければならない(出頭できない正当な理由があるときは、前もって、その理由を明らかにして、届け出なければならない。))。

4 被告人は、本件事件関係者に対し、面接、通信、電話等による一切の接触をしてはならない。

5 被告人は、勾留執行停止期間中、被告人の妻である相嶋〇〇〇の監督に従わなければならない。

令和2年10月28日

東京地方裁判所刑事第14部

裁 判 官 本 村 理 絵

本決定謄本即日
検察庁送付済
裁判所書記官